

第6学年 国語科学習指導案

日時 平成18年10月13日(金)5校時

児童 男子 6名 女子 7名 計13名

指導者 工藤 譲 治

1 単元名 二 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう

2 教材名 平和のとりでを築く(大牟田 稔)

自分の考えを発信しよう

3 単元名について

(1)指導事項について

本単元の主たる指導事項は「書かれている内容について事象と感想、意見の関係をおさえ、自分の考えを明確にしながら読むこと」(読工)「全体を見通して、書く必要のある事柄を整理すること」(書イ)「自分の考えを明確に表現するために、文章全体の組み立ての効果を考えること。」(書ウ)「文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること」(書オ(ア))である。この力を育てるためには、「筆者の意見、感想を捉えながら、自分の立場からの意見を常に意識して読む力」「筋道を立てて文章を書くために、必要な情報を収集・選択、整理する力」を育てる必要がある。本単元では、「平和について自分の考えを深め、深まった考えを分かりやすく組み立てて書いて交流する。」「学習後も考え続ける意欲を持つ」ことを目標とする。

(2)教材について

本単元は、「平和のとりでを築く」と「自分の考えを発信しよう」「インターネットと学習」から構成されており、「平和のとりでを築く」を読み取りながら「自分の考えを発信しよう」で、「平和」というテーマで自分の考えを発信する学習を行う。この学習を通して、自分の考えを持ち、自分なりにその考えを深めること、そして他者に発信することで表現能力を高めることをねらいとしている。

本教材は、「平和のとりでを築く」は、原子爆弾の投下により廃墟と化した産業推奨館が、戦後の歴史と多くの人々の平和を願う心から、「原爆ドーム」として世界文化遺産に登録された経緯を述べたものである。この文章は、史実に基づいて記述されているのと同時に、筆者がこの原爆ドームが世界文化遺産に登録された意義と多くの人々が平和を希求していることを語っている。このことを踏まえて、「自分の考えを発信しよう」では、子どもたちが考える「平和」についてその考えや意見を他者に向けて発信する。このことは、これから変動していく社会に起こりうるであろう諸問題に対し、自分なりに考え方をもち発信する態度を育成することにもなりうると考える。

以上のことから、本単元では正確に文章を読み取り史実を理解するとともに、「平和」に対する自分の考えを深めることができる教材であると考えられる。

(3)児童について

児童は5年下「ニュース作りの現場から」「工夫して発信しよう」の学習において、情報発信の手立てを学習し身近にある話題を6年生に向けて発信する学習を行った。学校生活における活動の様子や、学校の沿革、市町村合併など伝えようとする情報はさまざまであった。情報を伝えるための情報収集活動において、意欲的に学習を進める児童が見られるようになった。6年上「森へ」の学習では、学級内読書会のために推薦本を紹介する学習を行った。教材文「森へ」の読み取りにおいては、自分の五感を大切にして学習を進めた。「森へ」の紹介文を書き、それを自分の推薦本の紹介文へ生かす学習を行った。

児童は、語彙が豊富とは言えず、説明文の読み取りにおいては感覚で読み取ってしまう児童が多い。このことは自分の考えを文章化する際に、適切な言葉がなかなか見つからず書き出せない傾向に影響を

与えていると思われる。また、念頭において自分が書きたいことをなかなか構築できない児童がおり、念頭で納得ができないと書き出さないため、書き出すまでに時間がかかる児童がいる。

しかし、全体的に物事を調べようとする意欲があり、性格的に素直であるので典型を学習する際には忠実に行おうとする傾向にある。この良さを生かして、情報収集の手立てと取捨選択の方法を身につけさせ、一斉授業での指導と学び合いによる学習のバランスを考え指導を進め、書くこと伝えようとする意欲を高めていきたい。

(4) 指導にあたって

本単元の指導にあたっては、以下に挙げることについて留意しながら進めていきたい。

「平和」に対する自分の考えを深めさせるために、「平和のとりでを築く」では、歴史的背景をもとに史実を的確に理解させる。

自分が考える「平和」について書かせるために、「平和のとりでを築く」での筆者の考えや願いについて理解を深めさせる。

筆者が自分の考えや願いを伝えるために、文章構成の工夫していること、事実と考え・考えを区別するための文末表現の選び方を理解させる。

「平和」に対する自分の考えを文章化するために、必要な情報の選択の仕方を身につけさせる。ペア学習を通して、自分の考えが他者に的確に伝わるかを考えさせながら文章化をさせる。

4 単元の目標

【国語への関心・意欲・態度】

筆者の訴えを受けて自分なりの考えを持ち、「平和」について関心をもって読んだり、話し合ったり、書いたりしようとしている。

【書く能力】

- ・「仮の要旨」から「確定した要旨」への過程で必要な材料を選び直す。(書イ)
- ・自分の考えを明確に表現するために、効果的な文章の組み立てを考える。(書ウ)
- ・事実と意見を区別して書いたり、対立する意見を取り上げて反論を述べたりする。(書エ)

【読む能力】

- ・筆者の考えをまとめ、自分はどのように考えるかまとめる。(読イ)
- ・「平和のとりでを築く」という題名が意味することに注意しながら読む。(読イ)

【言語についての知識・理解・技能】

- ・文章には、いろいろな構成があることを知り、適切なものを考える。(読オ)

5 学習指導計画と評価規準(16時間)

次	時	学習活動の概要	主たる評価規準	リンク
第 一 次	1	・単元の学習の目標と流れについて理解する。	【関】 難語句や新出漢字の読み方を確認しながら、進んで読もうとしている。	・「平和」について自分の考えを伝えることを目的とし、そのための学習の流れを把握させ、自分の「平和に」に対する考えを文章化する際の意欲づけを行う。
	2	・難語句や新出漢字の読み方を確認しながら、「平和のとりでを築く」を通読し、自分の読みの課題を設定する。	【読】 文章の内容に興味を持ち、進んで音読することができる。 【言】 難語句の意味を調べることができる。	
……	3	・題名の意味と、産業奨励館(原爆ドーム)が世界遺産となった意義についてを共通課題として読み進める。(全文通読)	【読】 「平和のとりでを築く」という題名が意味することに注目して読むことができる。	・「平和」に対する筆者の考えや多くの人々の考えがあること念頭に置かせる。書く時の目的意識を持たせる。

	4 5	・広島「産業奨励館」が「原爆ドーム」と呼ばれるようになった理由と、保存されるようになった経過と理由をまとめる。(2時間)	【読】具体的事例について事実や時間の経過をおさえて、正確に読み取ることができる。	・史実を的確に捉えさせ、自分の考えを文章化する時の事実の列挙の仕方を学ばせる。
	6 7	・「原爆ドーム」が世界遺産になった経緯と、世界遺産にしてされたことに対する筆者の考えをまとめる。(2時間)	【読】具体的事例について事実や時間の経過をおさえて、正確に読み取ることができる。 【書】まとめの段落に着目し、根拠を明らかにして、筆者の伝えたいことについて書くことができる。	・筆者の伝えたいことがどのようにまとめられているかを理解することにより、自分の論説のまとめ方や方向性について考えさせる。
	8	・「平和のとりでを築く」で、筆者が訴えたかったことは何かを考え、それについて自分が考えたことの意見を交流する。	【書】自分の感じたこと・考えたことを明確にして、自分の考えを書きまとめることができる。	・「平和」についての考えを書くことの目的意識を再確認させる。
	9	・「平和のとりでを築く」の内容を振り返りながら、自分の考える「平和」についての意見を交流する。さらに深く考える視点を持つ。	【関】「平和」について関心を持ち、読んだり、話し合ったりしようとしている。	
第 三 次	10	・現在の時点で考えていることを「仮の要旨」としてまとめ、材料(情報)収集の見直しを持つ。	【書】自分の考えをもとに、「仮の要旨」を書くことができる。	・教材文の文章構成と内容を想起させることで、情報収集の観点を確認する。
	11 12	・「インターネットと学習」を収集の手段の一方法として学び、材料(情報)を収集する。(2時間)	【読】インターネットを利用する際に、大切な事やルールについて読み取ることができる。 【関】自分が伝えたい「平和」についての材料を収集しようとしている。	
	13	・集めた材料を元に、「仮の要旨」を「確定した要旨」にまとめ直す。(本時)	【書】集めた材料を取捨選択し、自分の意見が伝わるように組み立てを書くことができる。	・教材文の文章構成と比較して、自分の構成パターンを選択させる。
	14 15	・論理を展開する構成を考えて発信するための文章を書く。書きまとめたものを推敲する。(2時間)	【書】事実と自分の意見を区別して書いたり対立する意見を取り上げて反論を述べたりすることができる。	・筆者の考えをまとめている段落に着目し、自分の考えが相手に伝わるようにまとめられているかを考えさせる。
第 四 次	16	・自分の考えを発信し、意見や感想を交流して、考えを深める。	【関】自分の学習に対して達成感、満足感を感じたり、学習した意味を見いだしたりしている。 【話】事実と意見の違いを区別しながら聞き、相手の立場に立って来たり質問したりすることができる。	

6 本時の指導

(1) 指導の構想

本時の学習では、自分の考えや意見を効果的に伝えるために、文章構成の設定と要旨の確定することに主眼を置く。

したがって「仮の要旨」を確定させるための材料の取捨選択を効率的に行わせたい。また、「確定した要旨」は自分が伝える考えや意見の中心であるので、自分が考えた「仮の要旨」の見直しの時には、取材した材料の必要性にも着目させたい。そのためには、「平和のとりでを築く」の読み取りの学習において、筆者の事例の取り上げ方や、筆者の考えの記述の仕方を児童に随時振り返らせながら授業を進めたい。

また、「確定した要旨」の記述や編集した材料の選択に時間がかかる児童については、「仮の要旨」を振り返らせ、そこを起点として個別指導を行いたい。

(2) 目標

集めた材料の中から自分の主張に必要なものを選択し、確定の要旨をもとにして自分の意見が伝わるように文章構成を考えることができる。

(3) 展開

段階	学 習 活 動	教師の支援と働きかけ	評価(方法)
つ か む 五 分	1 前時の学習を想起する。 2 本時の学習課題をつかむ。 3 自分の考えや意見が伝わるように、文章の構成を考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを発信するために、さまざまな材料を収集したことを確認する。 確定した要旨をもとに、文章構成を考えることをおさえさせる。 	
ふ か め 三 五 分	3 構成例1と2の相違点に気付かせ、それぞれの文章構成を確認する。【モデル提示】 4 集めた材料を選びながら、効果的な構成を考えて書く。 【一人学び】 5 集めた材料をもとに、確定した要旨を書く。 【一人学び】 6 書いた構成について交流する。 【ペア学習】	<ul style="list-style-type: none"> 始めに実例や説明を述べた上で、主張を最後に示す方法(構成例1)と、主張を初めに示し、その後に事例を述べる方法(構成例2)とがあることを理解させる。要旨が長文化しないように簡潔に書くことを指示する。 自分の考えを伝えるために、必要な事柄を選択させる。 まとまりに対し見出しを付け、そのつながりを考えることが効果的な構成であることを理解させる。 まとまりについては簡潔に書くよう指示をする。 相手を書いた構成が、意見や考えが伝わりやすいか評価させる。 	集めた材料の中から必要なものを選択し、自分の考えが伝わるように組み立てを書いている。 (記述)
ま と め る 五 分	7 本時の学習を振り返る。 8 次時の学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 課題に沿って書くことができたか、自己評価をさせる。 	課題に沿って進んで文章の構成を書くことができたか。 (記述・発言)

(4) 具体の評価規準

評価規準	十分満足できる児童の姿の例	努力を要する児童への手立て
集めた材料の中から必要なものを選択し、自分の考えが伝わるように組み立てを書いている。	集めた材料の中から必要なものを選択し、自分の考えが伝わるように工夫して組み立てを書いている。	材料の選択の支援を行う。選択した項目の簡単な単語への置き換えの支援を行う。構成が組み立てられない児童にはカードを使い考えさせる。